様式 3

新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）

事業名（主）	緊急事態下における子ども及び若者による芸術創造活動の支援事業
事業名（副）	～芸術教育のユニバーサルデザインとトラウマケアに関する取り組み～

実行団体名	認定特定非営利活動法人 ミューズの夢
資金分配団体名	公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

優先的に解決すべき社会の諸課題

	領域		分野
☐	1) 子ども及び若者の支援に係る活動	☒	①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
		☒	②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
		☒	③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
☒	2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	☐	④働くことが困難な人への支援
		☒	⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
☐	3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	☐	⑥地域の働く場づくりの支援
		☐	⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他団体として解決したいと考えている社会の課題	☒	障がい者と健常者が、互いに安心して参加・共創できる芸術環境つくりとそのリモート化、それに準じる支援

実施時期	2020 年 11 月 1 日 ～ 2022 年 1 月 31 日
事業対象地域	☒ 全国　　☐ 特定地域
事業対象者 （事業で直接支援する対象者と、その他最終受益者を含む）	発達(身体的・知的・精神的)に何らかの障がいを抱えている子ども、長期療養中の子ども、とそのご家族
事業対象者人数（想定）	延べ 500 名(郵送参加、オンライン含む)

Ⅰ.団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
当法人(認定特定非営利活動法人ミューズの夢)は、2001 年の設立以来、障がい者(身体的・知的・精神的障がい、発達障がいをもつ子どもから大人)に対し、専門家による音楽療法・リトミックの提供、プロの音楽家・美術家による質の高い芸術サポート運営、を行い、またそれらの活動に携わる指導者・保護者を主な対象者とし、福祉・教育に係る研修・啓発事業を継続的に行い、皆が生き甲斐を持って生活していける地域社会の構築に寄与する事を目的に活動している。

(2)申請団体の概要・事業内容等
1)病院・特別支援学校への定期的な訪問教室・訪問コンサート **2)**芸術サポート教室運営(音楽療法士によ るリトミッククラス、個人・グループ授業、器楽アンサンブル、オーケストラ指導、など)**3)**対象者への 楽器の無料提供・定額での貸し出し **4)**活動に従事する指導者、演奏家、保護者を対象とした音楽療法、教育研 究、発語育成などの勉強会、ワークショップ、講義のコーディネート **5)**対象者による音楽発表、コンサート公演事業、アート個展、などの企画・運営・サポート

Ⅱ.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
1)障がいをもつ子どもには、免疫疾患など重度の疾病を抱えているケースが多く見られる。その為、健常 者よりもウイルス感染した場合に病状が深刻化もしくは長期化するリスクが高い。また家族と面会の許さ れない状況下で入院する事態に至った場合はより専門的なケアを要するだけでなく、本人にも保護者にも 多大な精神的苦痛と生活困難を強いられることが予想される。故に、自粛生活中そして退院後の子どもと 家族に対し、より細やか且つ多角的な心のケア・サポートの必要性を強く感じる。 **2)**自粛期間中、多くの教育機関で授業や集会がリモートで行われるようになり、様々な文化事業も遠隔対応されるようになったが、障がいをもつ子どもにとってはパソコン画面上で行われている事が認識できない、自分の体験として察知するまでに長時間を要する、など課題が多い事が当法人が本年 4 月より約 60 名の生徒を対象とした遠隔教育(音楽レッスン)やアートプロジェクトをオンラインで試行した結果判った。(参照リンク: musenoyume.jp/kotori)障がいをもつ子どもたち、入院中の子どもたちにこそ必要とされているリモート支援だが、有効的な実践のためには、保護者への細やかなヒアリング、対象者のニーズに応えられる教育開発と人材育成、病院・教育機関との連携、を行い、提供方法の改良を重ねる必要がある。 **3)**感染防止のため、病院や特別支援学校等への定期訪問教室・訪問コンサートが行えない。 **4)**当法人は宮城県を中心に活動しているため、対象者の殆どが東日本大震災の被災者である。今回未曾有の新型ウイルス感染拡大により、短期間で生活が一転したことが引き金となり、子どものなかには震災当時のトラウマ(外出ができなくなったり、乗り物に乗れない、という症例があった)が蘇り、精神的苦痛や PTSD を経験したケースが複数みられた。震災発生後も、自発的な芸術活動・自己表現は、受動的な療法では得られない形での「自己肯定・精神安定・心のケア」などの効果を子どもに齎した実例が多数見られたため、現状の長期化を考慮した上でも、障がいをもった子どもたちにとって充実した通信芸術プログラム提供の必要性と緊急性を感じている。

Ⅲ.事業内容

(1)事業の概要
感染拡大により芸術創造および学習活動が継続困難となった、障がいと重い病を抱える子どもたちを対象とした通信芸術プログラム内容の充実と配給。約 20 年に渡る教育実績と本年 4 月より当法人内で試行してきた通信芸術教育モデルを指針とし、有識者のアドバイスとともに細やかな実態調査を行い、**1)**音楽・美術教育のユニバーサルデザイン｜リモートによる教育カリキュラムの研究と実践、**2)**当事者参加型アートプロジェクト実施、**3)**緊急事態下のトラウマケア、の 3 つを活動の柱として提供。教材制作時には、美術/デザイン・音楽・臨床心理学・発達診療の分野の有識者らと連携し、制限のある生活を送る子どもたちが芸術創造を通じて、希望とともに新たな社会との繋がりをもち、自分の居場所を感じられるよう、サポートする。リモートでも参加できる当事者参加型の創造活動を実施し、コロナ禍でも子どもたちの日常にコミュニティーの温もりを届け「心のケア」につなげたい。

(2)事業実施後（1 年後）以降に目標とする状態
通信プログラムや参加型アートプロジェクトを受けた子どもや家庭に、今後新型コロナウイルス感染症のようなパンデミックが再発・長期化した際に、また入院中・退院後の回復期に、遠隔からでも参加できる芸術創造活動、芸術教科の学習支援、及びコミュニティーワークとして本プログラムを利用していただけるよう努めたい。重い病を抱えた子どもたちは、療養生活の長期化により心が塞ぎ込みがちになる傾向があるため、自己表現・自己発信のプラットフォームとして安心して利用できるよう、プログラム運営の整備には特に注力したいと考えている。 尚、配給・配信された学習支援教材・プログラムの総てまたは一部を多言語化し、オープンソースとし て Youtube や Vimeo を通じメディア配信し、より多くの子どもたちの「心の成長」と「心のケア」に貢献したい。事業のピアレビュー、参加者のヒアリング及び調査研究結果も可能な範囲でオープンソース化し、現在苦境にある教育現場や教育研究に貢献したい。

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	[新型コロナウイルスの影響で健常者と障がい者の間でより広がった学習・ 文化的環境(教育を受ける権利の格差]から生まれる社会的孤立の解消に向けた学習支援・子どもの心のケア] -対象者 100 世帯(もしくは院内学級)以上に学習支援教材が配給され、オンラインとオフラインのハイブリット供給創造活動プログラム配信・芸術鑑賞や創造活動が整備される。プログラムを受けた子どもにとって、塞ぎ込みがちな院内および在宅療養期間の新しい自己表現及び自己発見の場となり、自らの探究心を深めたり、自分肯定力を高めるきっかけとなる。それらは何らかのトラウマを抱える子どもの心の回復ケアにもつながると考えている。
実施・到達状況の目安とする指標	1)学習支援教材配布数 (100 世帯もしくは学級以上） 2)当事者参加型プログラムの参加人数 3)訪問・学習支援開催実績数 4)提携医療・教育機関数 5)配信コンテンツ視聴数 6)アンケート結果
把握方法	1) 学習支援教材配布数、2) 当事者参加型プロジェクトの参加者数 、3) 訪問・学習支援・オリエンテーション開催実績数のカウント、4) 当事者参加型プロジェクトを通じた提携医療・教育機関数、5)配信コンテンツ視聴数（Youtube, Instagram Video, 等) 6) 提携医療・教育施設にてアンケートを実施予定
目標値/目標状態	1) 学習支援教材配布数=100 世帯、2) 当事者参加型プロジェクトの参加者数＝合計述べ 60 名、3) 訪問・学習支援・オリエンテーション開催実績数のカウント＝合計 60 回 4) 本事業における提携施設・事業所＝5 カ所 5) 配信コンテンツ視聴数合計＝5000 回（助成期間内に配信されたすべての動画における視聴数の合計, YouTube, Instagram Videos, 等）6) 提携医療・教育施設にて実施予定のアンケートにて、対象者による全体評価が、5 段階評価のうち評価値 3.8 以上となること。
目標達成時期	1) 教材配布完了時期（２種）：2021 年 8 月 2）参加人数確定時期：2021 年 8 月 3）訪問•学習支援・オリエンテーション開催実績数確定時期： 2022 年 1 月 4)提携施設・事業所数確定時期：2021 年 11 月 5)配信コンテンツ視聴数合計確定時期:2022 年 1 月、6)アンケート実施時期： 2021 年 12 月～1 月 集計時期： 2022 年 1 月

(4)活動	時期
様々な障がいをもった子どものニーズに配慮した遠隔による教育のユニバーサルデザイン（音楽、美術、トラウマケアの３つの観点から）(1)連携施設および有識者よりヒアリング、実態調査(2)教材と教育メソッドの研究 (3)実践 (4)アンケート実施 (5)報告書まとめ	1)実態調査 2020 年 11 月～2021 年 1 月 2)教育研究・教材制作 2020 年 11 月～2021 年 10 月 3)実践(訪問、郵送、対面) 2021 年 2 月～12 月 4)& 5) アンケート実施＆報告書まとめ 2022 年 1 月
オンライン配信用動画(コンサート形式、他)の(1)企画制作・打ち合わせ (2)リハーサル (3)”Strings for Love”撮影 (4)”Strings for Love”配信 (5) ”Make your own Kotori”制作 (6)”Make your own Kotori”配信 (7)トラウマケアに関する動画制作(8)トラウマケアに関する動画配信	1)企画制作・打ち合わせ 2)リハーサル： 2020 年 11 月～2021 年 3 月 2)Strings of Love#1 撮影:2021 年 3 月 4)Strings of Love#1 配信:2021 年 6 月 5)Make Your Own Kotori 制作: 2021 年 5 月～9 月 6)Make Your Own Kotori 配信: 2021 年 11 月 7)トラウマケア動画 制作:2021 年 9 月～11 月 8)トラウマケア動画 配信:2021 年 12 月
当事者参加型パブリック・アート・プロジェクト(1)企画制作・打ち合わせ(2)協力団体募集(3)作品公募 (4)対面・オンラインによるワークショップ開催 (5)作品データ化 (6)オンラインギャラリー(7)絵本の共同制作（対面による展覧会やコンサートなどのイベントが開催できない代わりに出版）(8)録音図書制作(9)配布・配信 (10)参加者と協力団体へむけたアンケート実施	1)企画制作・打ち合わせ 1 2020 年 11 月～2021 年 2 月 2)協力団体募集 2020 年 11 月～2021 年 4 月 3)作品公募 2020 年 4 月～2021 年 6 月 4)対面・オンラインによるワークショップ開催 2021 年 2 月～8 月 5)作品データ化 2021 年 5 月～8 月 6)オンラインギャラリー(SNS) 2021 年 5 月～2022 月 1 月 7)絵本制作 2021 年 9 月～11 月 8)録音図書制作 2021 年 10 月～11 月 9)配布・配信 2021 年 12 月 10)アンケート 2022 月 1 月

(5) 事業の今後の展開（今後、団体が目指す事業展開）
これまでの活動のより安定・充実した継続とともに、約 20 年に渡った障がいを持った子どもたちの芸術サポートに特化した活動実績を活かして、次世代を担う若者たちが、健常者と障がい者の隔たりをより一層感じることなく生活を営み、芸術創造を通じ共創できる、ぬくもりある地域社会つくりに貢献したい。

6) 日々の事業実施や組織運営において子どもの安心・安全をどのように確保していますか？ （子どものセーフガーディングの取り組みなど）
登録者とご家族の徹底したプライバシー管理。また日本医師会のガイドラインに基づく新型コロ ナウイルス感染対策の徹底実施。日頃より衛生的な活動環境とセキュリティを心がけています。

(7) 子どもへの支援活動を行う際に、団体として、留意・心がけているポイント。（活動における子どもの役割など）
子どもひとりひとりの立場と可能性により沿って、丁寧に、誠実に、適切に寄り添うこと。教員による、敬意ある、肯定的な声がけと、明るい雰囲気作り、謙虚な姿勢。

Ⅳ.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	本事業推進ボランティア・スタッフ全体２５名 1)総合事務 1 名 2)経理担当 2 名 3)教材制作実行委員会　4 名　（教材制作、実態調査実施） 4)訪問学習支援講師 2 名 5)Strings of Love 担当 2 名 5)当事者参加型アートプロジェクト担当 2 名 6)補助ボランティア 8 名 7)本事業における相談窓口担当 2 名 8)有識者アドバイザー（発達診療科医、トラウマケア）2 名
(2)他団体との連携体制	提携実績のある病院と支援学校(詳細は添付資料をご覧ください)
(3)想定されるリスクと管理体制	学習支援及びオリエンテーション訪問時のコロナウイルス感染。日本医師会による感染予防ガイドラインに基づく予 防対策を徹底し、感染状況に合わせ適切に判断。

Ⅴ.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無		
コロナウイルス感染症に係る事業		
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動している(予定も含む)	□有り ☒無し	「有り」の場合その詳細
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金を受けていない。	☒無し	※有の場合、選定の対象外となります。 （公募要領：助成方針参照）

(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績
2020 年 4 月（緊急事態宣言発令以降）より、当法人運営によるサポート芸術教室生徒 60 名を対象とした通信による学習支援実施モデルを試行。また、現在、仙台市文化事業団の助成を受け、当法人がこれまでに提携実績のある病院及び支援学校を 対象とした通信アートプロジェクトを実施中。そのアウトプットに基づき、ピアレビュー等調査研究結果をまとめる予定です。